

# 東米良地区1000年協議会

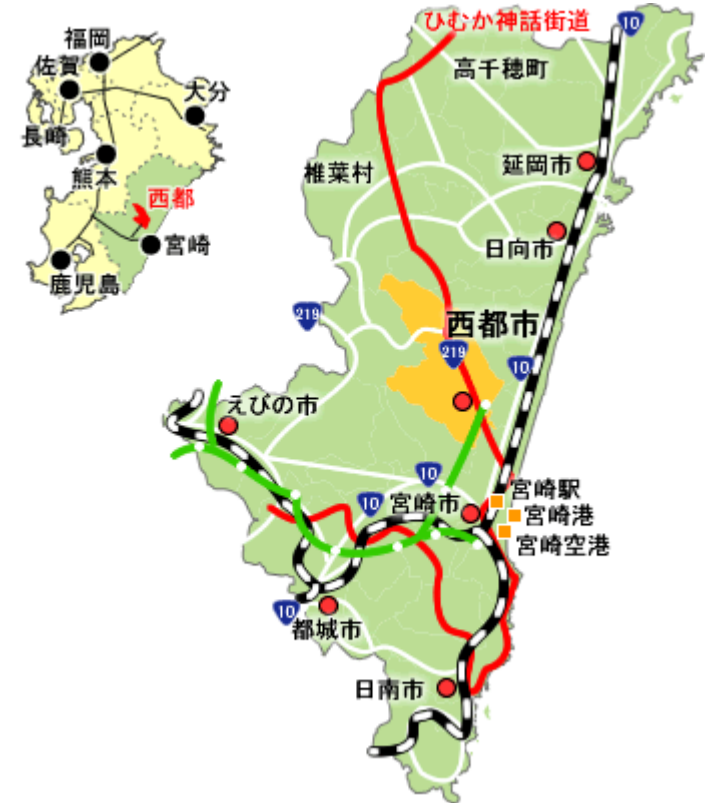
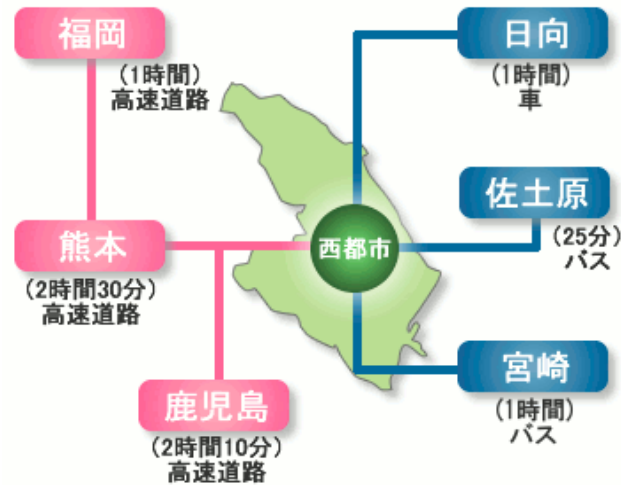
1000年続く村 東米良創生プロジェクト 循環型山村づくり



# 西都市東米良地区ってどんなところ？



旧東米良村



東米良地区は、面積142km<sup>2</sup>（市の面積438km<sup>2</sup>の32%）

| R5.12月現在 | 人口      | 世帯数      | 高齢化率   |
|----------|---------|----------|--------|
| 西都市      | 27,425人 | 11,840世帯 | 38.32% |
| 東米良地区    | 216人    | 116世帯    | 56.03% |



# 西都市東米良地区ってどんなところ？



基幹産業 ゆず  
青果・ゆずこしょう・ゆず  
ジュース  
ゆずぽんず等加工商品



米良の神楽  
国指定重要無形文化財  
銀鏡神楽  
尾八重神楽



一ツ瀬ダム  
(九州電力1963竣工)  
巨大アーチダム。バランスのとれた  
美しい景観を見せている。日本一美  
しいアーチダムという声もある





# 東米良地区1000年協議会設立までの経緯

- 自治会、地域づくり協議会などの各組織で活動
- H31.4月 東米良地区地域支援事業準備室の設置（社会福祉法人善仁会）
  - ① 2名の職員を配置し、東米良地区の現状・課題・地域資源の調査を実施
  - ② 見えてきた課題から、東米良創生プロジェクトの提案
  - ③ 東米良地区の様々な団体や自治会等での協議
  - ④ 市民活動拠点の検討（憩いの家 or 旧銀上小学校）
- R2.3月 東米良創生会 設立 各地区代表及び地区外有志16名  
「1000年続く村 東米良創生プロジェクト 循環型山村づくり」始動

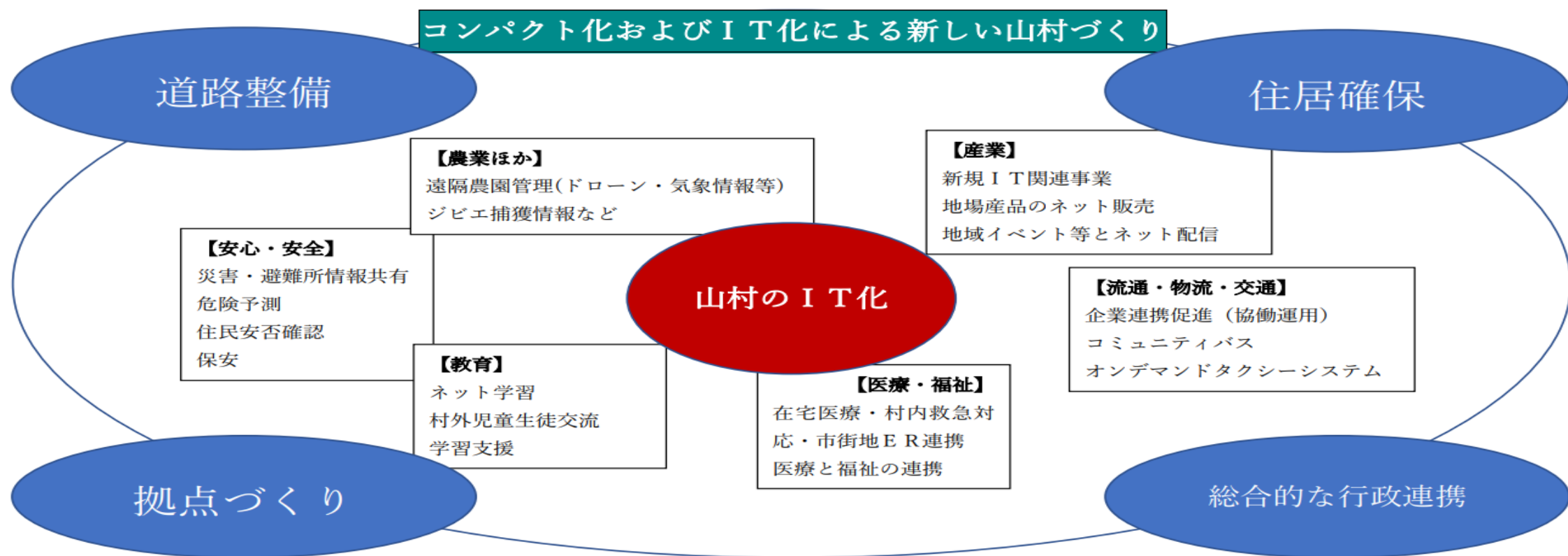


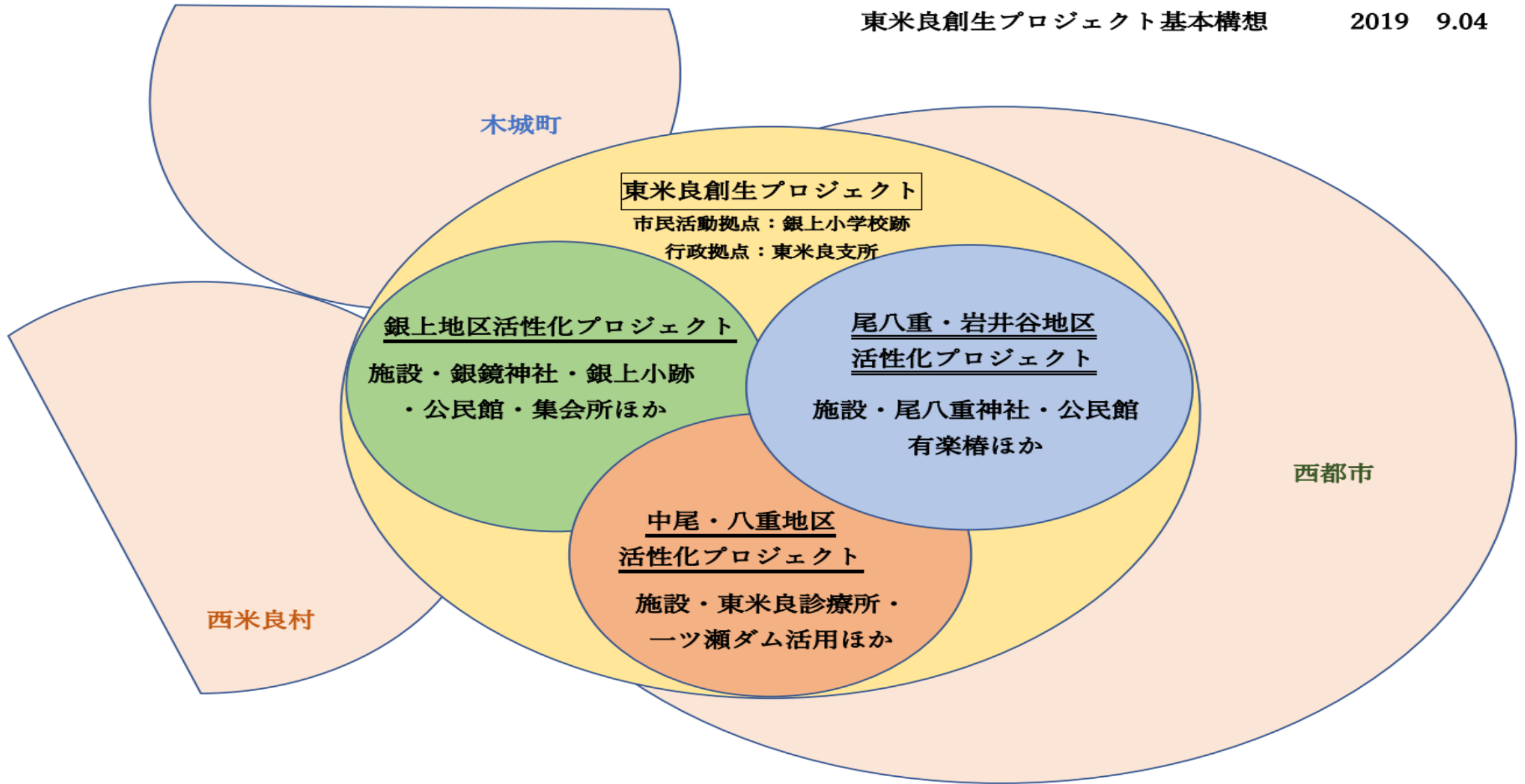
## 1000年続く村 東米良創生プロジェクト 循環型山村づくり

**【東米良を守り続ける意義】** 山の保全は森林の育成はもちろんだが、生命の根源である水を守ることになる。また、山村における生態系の維持も重要な役目であり、山村で起こるすべての事象は、そこに住んでいない市民にも密接に関わることである。

したがって、ここ東米良地区が1000年続く村を目指す意義は、西都市全体の永続的な生活の保全及び発展のために必要不可欠だからである。

《村の住民500人は市民全体の豊かな生活を支える礎であり、住民全員が山の守り人である。》





# 東米良地区1000年協議会設立までの経緯

- R2.4月
  - 東米良地区内組織の再構築  
東米良地域づくり協議会・自治会・地域活動運営の効率化
- R2.5月
  - 特定非営利活動法人東米良創生会 設立総会 理事15名で設立（8月に法人登記完了）
- R2.6月
  - 西都市議会にて旧銀上小学校を社会福祉法人善仁会に譲渡することが決定
    - 「あくまでも現状渡しで併設の体育館を5年以内に解体すること」
    - 「地域の活性化に資する事業に活用すること」
    - 「災害時において、西都市指定避難所として活用させること」
  - を条件として無償譲渡



## なぜ東米良創生会を設立したのか

---

集落内の主要な団体と調査内容（原因・課題・資源）の共有と課題解決の協議をし、理想の集落を共有し、地域資源の再確認と有効活用方法などを話し合った結果、「事務局機能の低下および機能不全」が最終的な根幹をなす課題であったため、社会福祉法人善仁会の設置した準備室を、東米良の足りないものを補完する事務局としてそのまま継続。

その集落支援を地区内に留まらず、地区外の支援や協力を包括して活動できる団体として市民活動を選択し、NPO法人東米良創生会が設立された。





# 旧銀上小学校を拠点にした理由と費用面について

## 【拠点にした理由】

- 銀鏡・上揚地区は一番世帯数の多い地域であり、地域で作り上げた小学校として廃校利用が東米良地区住民の兼ねてからの願いであった。
- 東米良地区において介護保険サービスを展開を希望する声が多かった  
(住み慣れた地域に生涯住み続けたいという声)
- 創生会の事務局運営と各団体の会議等ができるスペースが必要
- 指定避難所であったが雨漏り、電気や水の利用もできず高齢者には避難しづらい環境であった

## 【費用面】 ※国の廃校活用事業を検討したが、断念

- 介護保険の通所介護事業開設に伴う補助金なし
- 改修費用は雨漏りによる破損部分の修繕を含め約6,500万円（自己資金）
- 東米良創生会部分の会議用テーブル、イス等の備品購入（約400万円）  
(みやざき地域課題解決型起業支援事業費補助金 上限200万円)
- 善仁会備品関係（入浴機器、厨房機器等 約1,000万円）





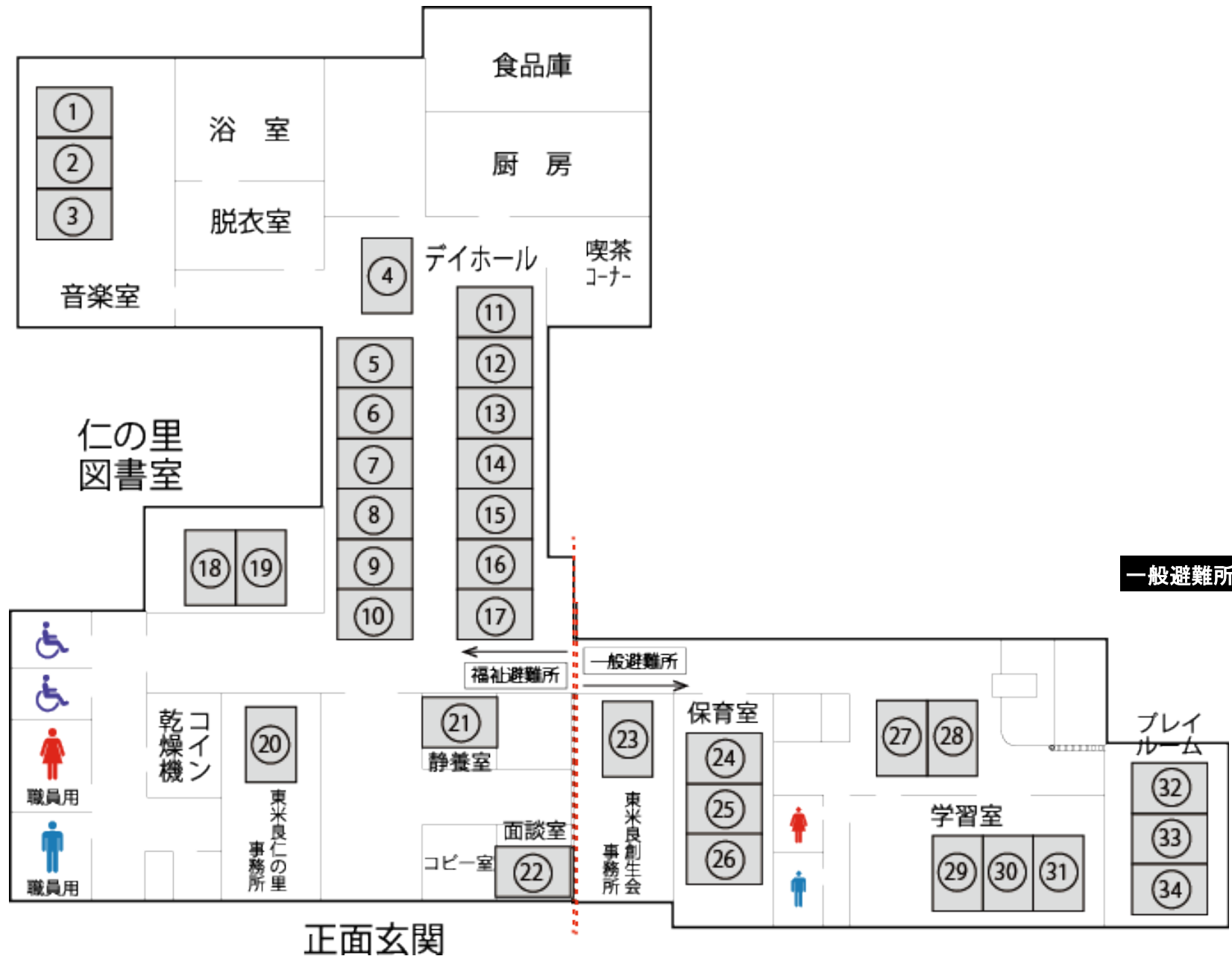








福祉避難所





# 東米良地区1000年協議会設立までの経緯

- R2.7月 ● 東米良地区移動手段検討会  
参加者：自治会、善仁会、西都市社会福祉協議会、  
西都市北地区地域包括支援センター、東米良創生会事務局
- R3.3月 ● 東米良地区オンデマンド移動支援事業 実証実験開始（6月まで）
- R3.4月 ● 東米良地区の新拠点 東米良仁の里 オープン  
デイサービス、居宅介護支援事業開始
- R3.7月 ● 東米良地区オンデマンド移動支援事業 本格運用開始



# 東米良地区オンデマンド移動支援事業

## 【取組の経緯】

- コミュニティバスは1日往復2便のみ
- 路線は主要道路のみであり、地域内の集落間移動や診療所、体操教室などへの参加は自家用車を使用しているが、高齢者には困難な状況

## 【事業の目的】

地域住民が無償ボランティアにより移動支援（道路運送法の許可・登録を要しない互助輸送）を行い、コミュニティバスや宮交バスと効率的に繋げることにより、東米良地区内において、将来にわたって地域住民が外出しやすい環境を確保する。

## 【事業の内容】

利用希望者宅から地区内の拠点（福祉施設・公共施設・山の駅等）への送迎、コミュニティバスのバス停まで及び東米良地区内における移動など予約制で運行する互助輸送を行う。車両3台（10人乗り1台、軽自動車2台）、運転ボランティア32人を確保しており、運休日は特に設けていない。



# 東米良地区オンデマンド移動支援事業

## 【工夫点や特徴】

- 安全運転確保のため、走行中の運行状況や安全運転状況を管理するシステム（ドライブドクター）を導入。
- ボランティアドライバーは安全運転講習会を受講したものに限り、70歳以下（現在32名）
- 予約制で原則前日の15時まで。
- 企業の地域支援（地域ボランティア）業務時間内に職員が活動に参加できる体制

## 【運営状況及び経費等】

- 予約システム、軽車両2台購入等（宮崎ひなた生活圏づくり事業補助金活用約500万円）
- 善仁会が所有するハイエースと軽車両2台で運行
- 運営費は利用者負担（50円 or 100円）と西都市互助による輸送事業補助金を活用
- 令和4年度実績  
延べ利用数2,325名 西都市補助金約140万円



## NPO法人東米良創生会自主事業

---

- ✓ 放課後児童クラブ（西都市福祉事務所 R2～）
- ✓ 未就学児学級支援（西都市福祉 R3～）
- ✓ むすび家銀鏡食堂 配食サービス（西都市福祉事務所 R3～）
- ✓ 水車滝行（R3～）
- ✓ 東米良銀鏡の宿「一の仁」古民家改装・簡易宿泊所運営（R3～）
- ✓ 尾八重高原星空キャンプ場（R3～）
- ✓ 東米良ドローンスクール（R3～）
- ✓ 東米良米づくり事業（R2～）
- ✓ 情報誌ひがしめらの作成・発行（R2～）



## NPO法人東米良創生会が事務負担等を支援

- ✓ 東米良地域づくり協議会 運営補助金（西都市市民課 R2～）
- ✓ 銀上集落協定 直接支払制度（西都市農林課 R2～）
- ✓ 尾八重地区活性化委員会 米良の郷眺峰館管理支援 R2
- ✓ 中尾自治区 一ツ瀬ダム湖トイレ管理清掃支援 R2
- ✓ いちご会未就学児移動支援（西都市福祉事務所 R3～）
- ✓ 銀鏡神楽保存会 活動支援補助金（西都市商工観光課 R4・R5）
- ✓ 社会福祉法人善仁会 電動アシスト自転車導入補助金（国交省事業 R2）
- ✓ 東米良自主防災連絡協議会 補助金申請（西都市危機管理課 R4.R5）
- ✓ 東米良地区体育振興会 活動支援補助金（西都市スポーツ振興課 R5）





# 東米良地区1000年協議会設立までの経緯

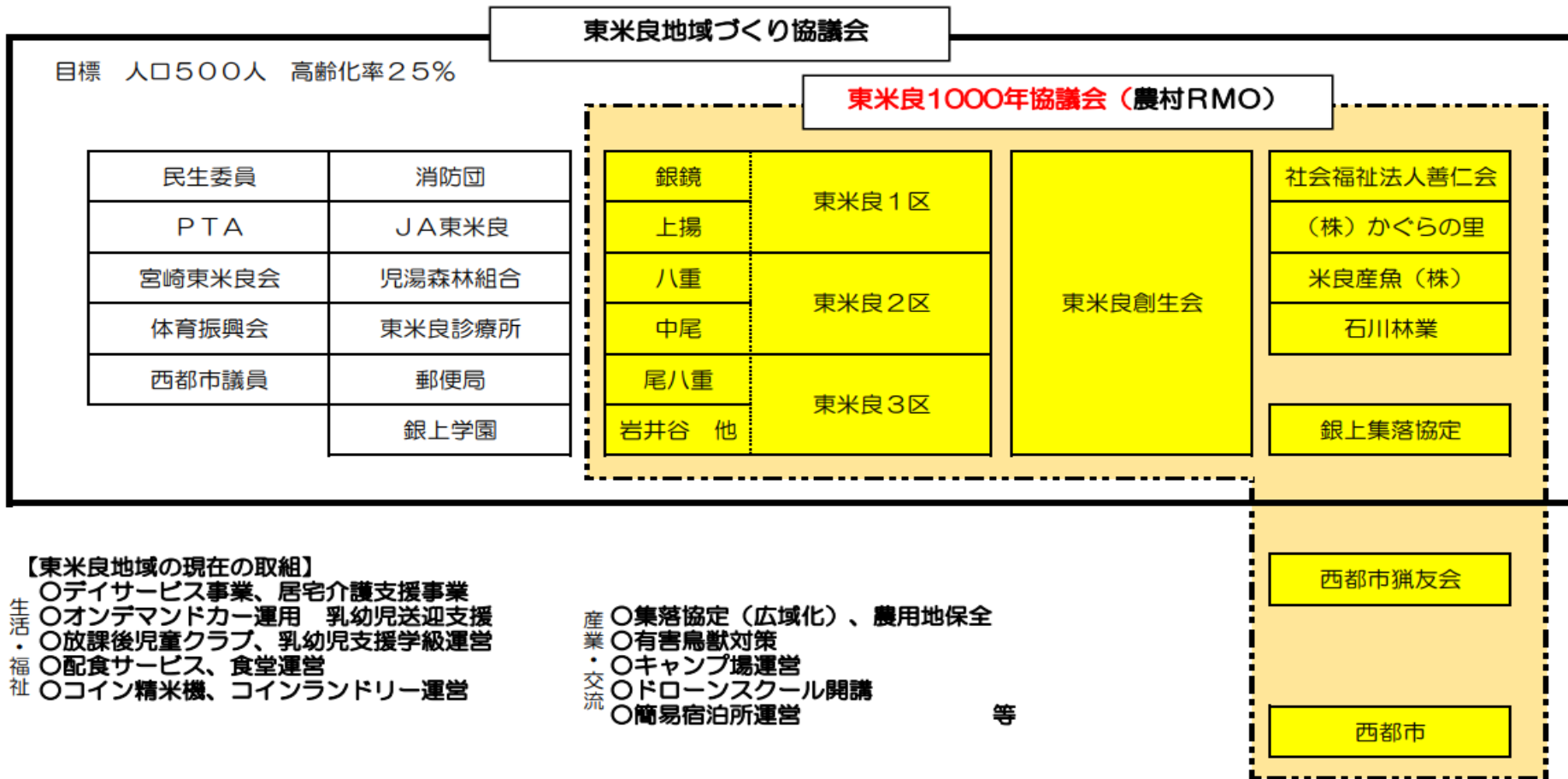
## 【これまでの取組により改善した点等】

- ✓ 東米良関連団体の情報共有により、全体の会議数の激減
- ✓ 実行委員会制により、目的別課題解決や事業展開の迅速化
- ✓ 窓口の一本化による情報収集・共有・発信の簡素化
- ✓ 東米良地区外の人的資源確保や資金確保の可能性拡大
- ✓ 行政連携・協力体制の改善

● R4.4月 ● 東米良地区1000年協議会設立 農村RMO形成推進事業スタート



スローガン 1000年続く村 東米良創生プロジェクト 循環型山村づくり



※東米良ボランティアセンター・会員ボランティア活動（仁活動）

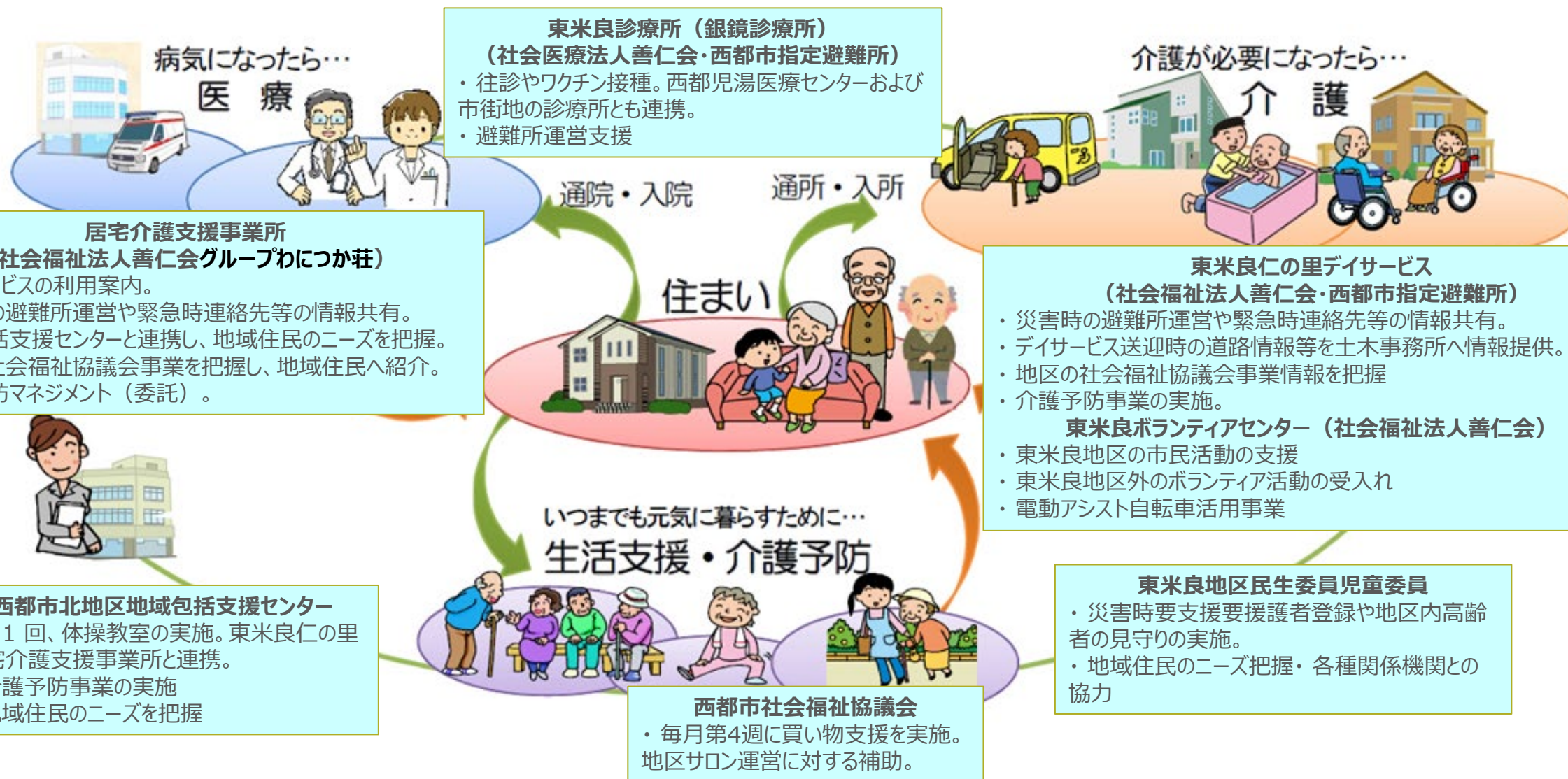
※滝行・サイクリング・ウォーキング・グラウンドゴルフ等イベント開催

**【今後の主な取組】**

- |   |  |   |   |
|---|--|---|---|
| <p><b>【労働力の最適化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農家、企業、猟師等間で必要な労働力を調整できる体制の構築</li> </ul> | <p><b>【ICT技術の活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベテラン農業者の技術継承、農用地管理や鳥獣害防止対策の省力化 等</li> </ul> | <p><b>【特産品開発】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆず、ジビエ、竹林等の地域資源を活用した商品開発</li> </ul> | <p><b>【域内流通体制の構築】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンデマンドカーやドローン等による物流、遠隔無人直売所の開設 等</li> </ul> |
|---|--|---|---|

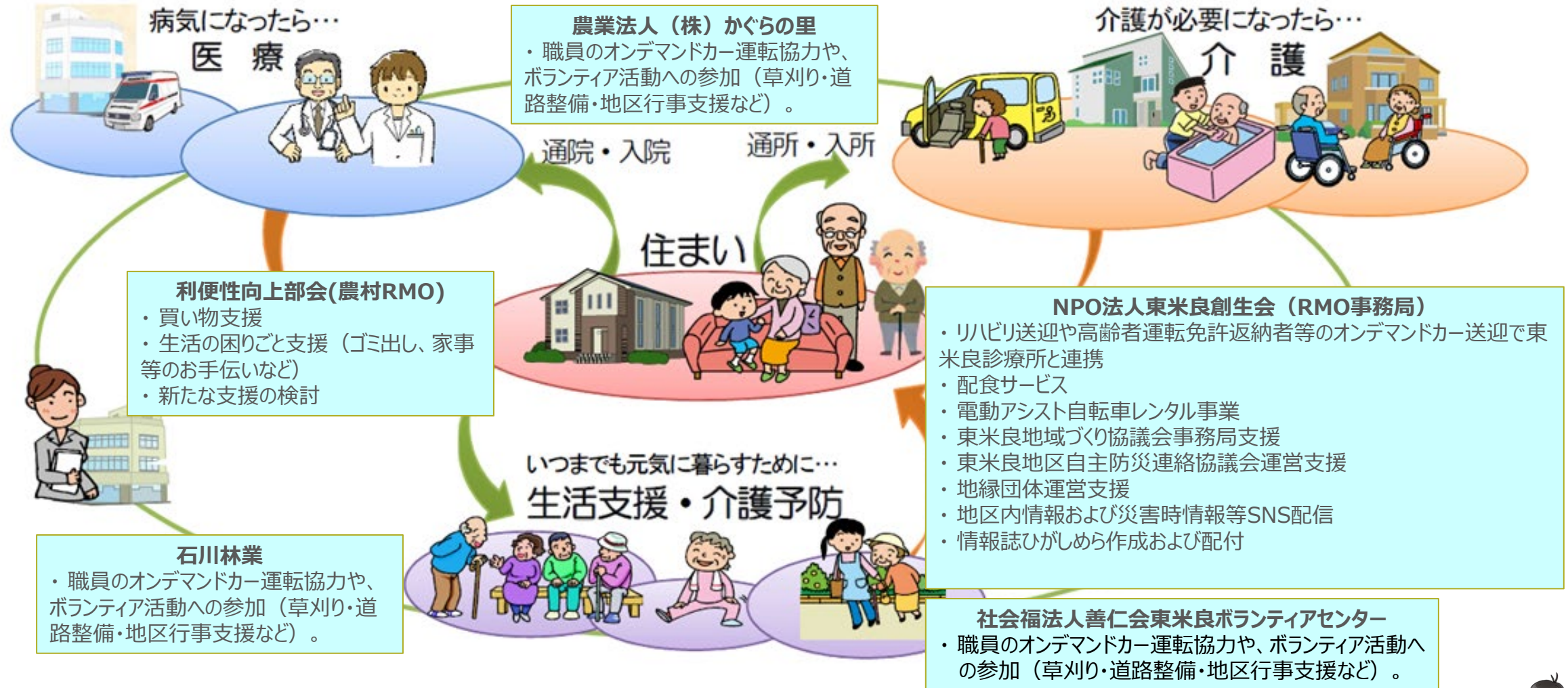


# 農村RMOと地域包括ケアシステムの連携





# 農村RMOと地域包括ケアシステムの連携



## 農村RMOと地域包括ケアシステムの連携

---

- ◆ 東米良地区1000年協議会が立ち上がったことで、新たな団体や個人と連携できるようになった。
- ◆ 現在、東米良地区で進めている活動に地域包括ケアシステムの活動を重ねることにより多くの方々に知ってもらい利用してもらえるようになった。
- ◆ 地域住民も地域企業も他人事が我が事（自分事）になった。





## 地域包括ケアシステムの今後の展開

---

- ◆ 現在ボランティアで行っている生活援助を、介護保険を活用したものに切り替えるための支援。
- ◆ 具体的には、善仁会が実施する介護職員初任者研修を地域住民に受講してもらい、訪問介護員（通称ヘルパー）として従事できるように支援。
- ◆ 東米良創生会が事業展開として訪問介護事業所を開設し、訪問介護員の派遣をし、地域の高齢者を支える仕組みを検討する。
- ◆ また、1000年協議会で構築中の「（仮称）東米良ハローワークアプリ」の仕組みが訪問介護員の登録や派遣などにも活用できることが期待される。



# 認定NPO取得について

- R2.8月 ● NPO法人東米良創生会 法人登記
- R3.1月 ● 賛助会員100名達成
- R3.10月 ● 賛助会員200名達成
- R4.9月 ● 特例認定NPO法人認可
- R5.8月 ● 認定NPO法人認可
- R5.12月 ● 賛助会員231名



# 認定NPO取得について

---

## ○ 認定NPO法人制度とは…

認定特定非営利活動法人制度（認定NPO法人制度）は、NPO法人への寄附を促すことにより、NPO法人の活動を支援するために税制上の優遇措置として設けられた制度です。

## ○ 特例認定NPO法人制度とは…

設立5年以内のNPO法人のうち、運営組織及び事業活動があって適正であって特定非営利活動の健全な発展の基盤を有し公益の増進に資すると見込まれるものにつき、要件からパブリック・サポート・テスト（PST）を免除し一定の基準に適合した場合は、税制上の優遇措置が認められる「特例認定」を1回に限り受けることができます。

※内閣府NPOホームページより引用



# 認定NPO取得について

## ○ 認定を目指した理由

- 支援者に税制優遇措置があることから、法人設立当初より目標としていた。
- 地区内外に関わらず、企業が寄付しやすい組織となるため
- 相続税の優遇もあるため、相続できる団体になるため（まだ前例なし）

## ○ 認定を取得したことによるメリット

- より支援者が増え、寄附金を募りやすくなった。
- 税制優遇措置があることから、企業が寄付をしやすくなった
- 目的別寄附金の受領ができることから、寄付者側の寄付目的が明確になった

## ○ 認定を取得する上で大変だったこと

- 申請書類が膨大で、作成に時間を要した。  
※司法書士等に依頼できるが経費節減と自分たちで作りたい気持ちで頑張りました。
- 役員との関係や役員との取引、支援者との取引などの報告義務や、会計監査並みの調査があった。







# 東米良地区

自然の恵み

デジタル

**融合**  
集落

**最新の技術と自然の恵みを取り入れた  
維持継承できる最小単位の集落を  
この事業で模索し挑戦していきます！**

東米良創生会



ご清聴ありがとうございました